2017年6月10日

四 国 旅 行

四国最大手の建築会社元社長（昨年、定年退社）が、私が主管するYBI増益経営塾に入塾のご縁で家族ぐるみのお付き合いとなり、３回目の四国旅行を2017年５月24日～26日の３日間行った。

１．　鳴門海峡

渦の発生は、月と太陽の引力によって海水面の上下動が周期的に起こる現象で、１日に満潮と引潮が交互に２回の約６時間周期に起こる。鳴門海峡の場合、春と秋の大潮の頃が塩の流れが時速20㎞（直径20km）にもなり、大きい渦が観られる。今回は、5月24日 11:00頃で干潮時であった為、渦潮は小さく残念だった。写真は、鳴門公園内の大鳴門橋架橋から撮ったものである。船で渦潮近く迄近寄り観ることが出来るがスケジュールの関係上で割愛した。

２．　砥部焼

２年前四国旅行をした時に砥部焼を購入し､魅了された家内は再度見学したいと熱望し窯元の長戸製陶所(愛媛兼伊予郡砥部町五本松196)を訪れた。図柄も上品で飽きがこない陶器である。今回は、夫婦湯飲みと陶器を数点購入した。

３．　阿波藍

阿波の北方に位置する吉野川流域の農村は日本最大の藍作地帯として知られている。その起源は平安時代初期に荒妙という布地を織っていた阿波忌部(いんべい)氏が栽培したという伝承がある。

藍商屋敷(旧奥村家/徳島県坂野軍藍住町徳命字前須西172)は、1808年に建築の母屋を始め藍加工工場や座敷には阿波藍の栽培、すくもの加工、阿波藍の流通が絵画で説明されている。

今回は、藍染めの小物を購入せず、家内が山紫陽花にこっており「丸山ボタン」という山紫陽花に目が止まり、ついに持ち帰ることになった。

４．　少彦名神社

京都清水寺の建築構造の様に骨組みの柱を剥き出しにした建築物で、天照大神と大黒様が祭られている由緒ある歴史的神社であるにも関わらず地元の関心度が低い様に思われた。同神社を歴史的にひもとき、観光 PR を全国的に広げるべきと考える。地元民は、参拝すると霊が宿ると恐れている。

同神社の境内の木陰には珍しい浦島草(テンナンショウ属)が沢山生えており、浦島草から出ている糸には、大黒様が抱えている鯛と何故か重なり不思議な納得感を覚えた。同神社を出た前の大きな道路の脇の草むらに浦島草を見つけた家内は、お茶の先生が喜ばれると社長達と数本抜き取り持ち帰ってきた。

５．　食事

社長宅は西条市内にあり社長夫妻の行きつけの創作料理の料理店は、時間を忘れ美味しく頂いた。特に、大きな「絹皮茄子」の天麩羅は柔らかい皮とジューシな果肉が特徴で西条市の郷土料理である。絹皮茄子をお土産に頂き、社長夫人に教わった通り天麩羅に仕上げたが現地の味と大きく異なり幻の天麩羅になっている。刺身は、新鮮そのもので格別の美味だった。

四国旅行の最初の昼食事は、空腹になっていたこともあって鳴門海峡近くの食事処で郷土料理のラーメン(大々的な看板あり)とたこ焼を注文した。ラーメンはスープが味噌味のうどんで、たこ焼も冷凍製品を温めた感じで不味く、旅行中私達は『インチキ食事』だったと大笑いし、観光客相手にした一元客の大変不味い食事を体験した。最初の食事で苦い経験をしたので、その後は社長が気を使って下さり、地元で美味しいレストランに案内された。この地域は、豚料理が美味しい。社長夫妻によると「ジャコテン」が美味しいとの事でしたが、社長の行きつけの店があいにく閉まっていて入手出来ず、徳島空港内の売店で購入して自宅で温めて食べたが、美味しいとは思わなかった。次回の楽しみにしている。

６．　その他

海岸に沈む夕日が美しい下難海岸(伊予市又海町/テレビで紹介され一躍有名になる)に出向き 19:00 を待った。太陽が地平線に沈む頃に薄い雲が掛かり観えなかったが、雲が掛かる直前迄の少しの時間大きな太陽を観ることが出来たのは幸いだった。

帰宅して、ギックリ腰になったと奇遇していたら、３日間の四国旅行は社長の高級車クラウン・マジェスタのクッションが良過ぎて足腰に疲れ出た様です。今回の四国旅行は、観光・グルメの贅沢三昧で社長夫妻と共に家族旅行を堪能した。来年は、軽井沢で楽しい時間を共有出来ればと願っている。

以　上